

会 派 代 表 質 問 通 告 書

2024年2月21日

高島市議会議長 廣本 昌久 様

会 派 名 (日本共産党高島市議団)

高島市議会議員 10番 森脇 徹

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号3) 発 言 事 項	子どもも教職員も、豊かに学べる学校で
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>学校における働き方改革は2019年1月25日の中央教育審議会答申で取りまとめられ、文部科学省は、教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、学校における働き方改革を進めている。</p> <p>各自治体の教育委員会や学校でも取り組みが進められていることは承知しているが、教職員団体からは、</p> <p>◎教職員定数の抜本的改善。 ◎少人数学級の前倒し推進。 ◎競争主義的な教育政策の見直し。 ◎給特法の改正課題。 ◎労働安全衛生体制の確立。 ◎部活動の見直し。 ◎これらを具現化目指し教職員の声を施策に反映させる仕組みづくり</p> <p>以上の7点が提言されていると聞いている。</p> <p>それらを踏まえたうえで、打開の方策を以下、3点6項目を伺う。</p>	

1. 少人数学級の前倒し推進を

教職員定数の抜本改善は、子どもたちの教育環境の充実のため必要であると考え、

①1学級当たりの児童生徒数が35人以下となるよう、小学校での取り組みを前倒しさせるとともに中学校での早期の実現が急務であると考え。全ての学年・学級で35人以下を実現させることについて、市教育委員会としての考えを伺う。

②小中学校の特別支援学級は、クラス8人が定数だが、在籍の児童生徒が多い場合の支援の充実について伺う。

2. 複式学級編制について

高島市の人口動態におき、少子高齢化の進行がある。小中学校の児童生徒の構成、学級編制において、複式学級が増えてきている状況を聞く。複式学級編制や小規模校における教育環境の充実について、

①小中学校の複式学級編制の現状と改善策について伺う。

②複式学級編制を行っている学校を含む、小規模な学校で取り組んでいる特色ある教育活動と、その成果と課題について伺う。

3 部活動の地域連携について

中学校の部活動について、2019年1月の中央教育審議会答申で、「将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取り組みにし、学校以外が担うことも積極的に進めるべきである。」と地域移行について提言された。

2022年12月には「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」において、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行等が示され、当初の提言から変化がみられる状況を踏まえて伺う。

①市教育委員会で今年度から始められた「高島市部活動の地域移行検討協議会」について、運営と現状を伺う。

②市教育委員会は、2024年度からの新たな取り組みとして、中学校の『休日の拠点校部活動』を始めることについて、おしらせと説明会を行っているときく。この取り組みのねらいと想定される効果について伺う。